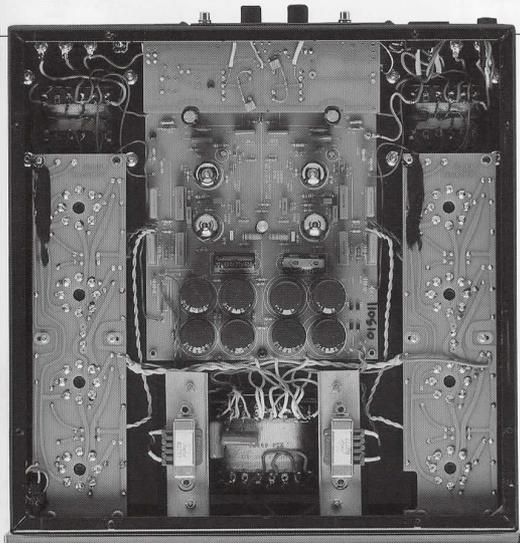


Power Amplifier

EL34 Parallel Push-Pull

## EAR EAR534 ¥689,000

●出力:50W+50W (8Ω) ●入力端子:LINE2系統 (RCAアンバランス、XLRバランス) ●入力感度/インピーダンス:775mV/47kΩ ●負荷インピーダンス:8Ω、16Ω ●使用真空管:ECC83×2、ECC85×2、EL34×8 ●寸法/重量:W405×H150×D405mm/21kg ●問合せ先:ヨシノトレーディング(株) ☎050(3375)3975



XLRバランス入力端子を装備。リアパネルにレベル調整ノブを配する。シャーシ天面のスピーカー出力端子は8Ω、16Ωに対応。



### 【回路解説】

ティム・デ・パラヴィチーニ氏設計による、EL34パラレルプッシュプル・ステレオパワーアンプ。電圧増幅部は2段差動回路が採用され、正相アンプ、逆相アンプそれぞれでA級パラレルシングルアンプを構成して出力トランス1次側で波形合成される。出力管EL34は5極管接続。A級自己バイアスのパラレルPPで出力50Wを得る。モノラル接続にも対応し、その場合は出力100Wを実現。出力トランス2次側より、初段差動アンプのカソードに少量のNFBが掛けられている。シャーシ内部はプリント基板で覆われ、ほぼ全回路部品はプリント基板にマウント。電圧増幅管はシャーシ内部に配置し、8本の出力管をシャーシ上に配置している。 (大西)



自社銘 (JJ) EL34

三津 EL34パラレルプッシュニブル、  
パワーアンプです。出力管は5極管接  
続ですが、出力は50W+50Wと抑えて  
います。動作点を吟味しながらまとめ  
ているんでしょう。ドライブーは2段  
差動回路で組んでいます。入力トラン  
スを搭載する辺りはプロ機の流儀の設  
計ですね。艶やかで透明感があり、ど  
こか3極管アンプを思わせるような音  
を感じます。E.A.R.アンプの良さは音  
の色彩感の豊かさだと思っているんで  
すが、「ワルキューレ」はそれがよく表れ、  
透明感を伴いながら朗々と鳴らすとい  
う印象です。トゥッツィで全員一丸とな  
って演奏する様子はウイーンフィルらし  
さが鮮明に出て、本機の真骨頂といえ  
る素敵な再現でした。格別に広い音場  
を展開するわけではないんですが、集  
中するエネルギーがあるんです。それが  
持ち前の音色表現の多彩さといまっ  
て好ましい再生になるんですね。

篠田 近代管EL34は、切れ込み良  
く冴えた音色、解像感の高い現代的な  
表現が魅力です。本機はそうした出力  
管の美質に加えて独特の腰の強さ、し  
なやかさを持った音を聴かせてくれま  
した。洗練された音です。音楽のエッ  
センスをうまく表現する能力がありま

色彩豊かな音色と浸透するエネルギーで  
音楽のエッセンスを凝縮して聴かせる。

EL34の美質に腰の強さが加わった、  
しなやかで洗練された、瞬発力のある再現

す。「ワルキューレ」でいえば、クライマ  
ックスの作り方が良いんです。強奏へ盛  
り上がって行くグラデーションがよくわ  
かり、音楽が聴く者の気持ちにどんど  
ん入って来て昂揚させます。楽曲の勇  
壮さ、気持ちを奮い立たせるような要  
素を巧みに描きました。

高津 きちんとウイーンフィルの盛り  
上げ方になつていそうですね。

篠田 「ロリンズ」は低音の出方が好印  
象でした。量感があるのにスッパリとキ  
レがいい。サククスも粘りと力があり、  
しかも鈍重に響くことがない。スマート  
な聴かせ方です。ヴァン・ゲルダー録  
音らしさをメリハリ良く出し、なおかつ  
嫌みがないんです。

高津 しつかりした低音の土台の上に  
サククスの音色のこまかなニュアンスが  
通って来て瞬発力があります。特にレ  
ンジを広げるのでなく、最高域がどこ

までも伸びるといっわけではないんで  
すが、一瞬に噴き上がるエネルギーシ  
ュな感じが出ます。リズムを刻むシンバル  
も特別に生々しいという感じではない  
んです。でも、トータルでは構成力の  
確かなモノラル録音のジャズになる。  
音楽を野放しにせず良いところを自分  
の音に凝縮して聴かせるまとめ方は、  
作り手の手腕を思わせます。

篠田 練熟した音作りですね。  
高津 「アフロ・ブルー」も、艶やかで厚  
みのある低音の上にホーンのハーモニ  
ーが乗り、浸透力とエネルギーのあるビ  
ッグバンドをゴージャズに聴かせました。

左チャンネルのサククスが隅にくつつか  
ず、きちんと前にいる感じで聴こえる  
んです。透明感のある音場が満遍なく  
つながります。大スケールではないんで  
すが、うまく自分の音にまとめます。

篠田 ホーン類が空間に漂うようにき

れいに再現されます。音場の表現が秀  
逸ですね。レンジを欲張らないことで  
実在感が生まれるんじゃないでしょう  
か。楽器の分離も良く、前に迫って来  
るアグレッシブな演奏です。管楽器も  
メタリックな硬さと艶やかさをうまく  
描いて、リアリティがあります。

高津 ホーンのハモリがしっかりと厚く  
出て来るといっわけですね。

篠田 「美空ひばり」は、冒頭のギター  
が豊かに鳴りました。細くて尖ったよ  
うにはならず、弦とともに鳴る胴の響  
きの豊かさが伝わって来ます。歌の方  
は、ややさっぱり系かもしれませんが。爽  
快で健康的で、暗さや湿つぽさはもう  
少しあってもいいですね。

高津 解像力を欲張る感じではなく、  
音像にまろやかな温かみと情緒を感じ  
ました。歌い方にタメもあります。ただ、  
声が少しエコーに埋もれるところがあり、  
歌の説得力として、あと少し追って来  
てほしいところがあります。そこは、し  
つぱりした四畳半趣味とは違う西洋的  
な個性といえるのかもかもしれません。で  
も、よくまとまった表現で、モノローグ  
のところはエコーが少なく、独り芝居で

なく切々と訴える感じが出ました。  
篠田 語りかける感じは、とてもよく  
表現していると思います。

## 管球式PPアンプ

## の躍動感あふれるサウンド



EAR

## 真空管と出力トランスを採用したCD専用機。 聴き手の心を掴むような骨太で豊かな響きで、 音楽にアナログ的な熱気やパワーが加わる

東条 ストレートで安定感があり、破綻のない音です。ただ、これがイギリスの製品と聞いて驚きました。あまり英国的ではなくて、むしろ私には日本的な音に感じました。確かに安心して聴いていられるんだけど、私はオーディオの音にはある種の刺激を求めるタイプなので、もっとスリルがほしいかなとも思いました。

新 そうですか。私は、かなり刺激的な音だと思いましたが(笑)。

東条 えっ、そう？

常盤 意見が違うのは面白いですね。私は先のガトー・オーディオをストレートな音だと言ったのですが、こちらはアナログ的な艶を感じるような音作りという印象です。全体的にアナログレコードを再生しているような感じを目指して、音を仕上げているような気がしました。

東条 なんてこんな印象が違うんだだろうな。新 聴きどころが違うんだと思いますよ。意見が違うのも面白いじゃないですか(笑)。

私はある意味で現代のハイエンドオーディオで主流になっている「無色透明、原音忠実」という考えのアンチテーゼではないかと感じました。音に熱気やパワーが加わります。聴いてすぐにわかったんですよ。このプレーヤーには真空管やトランスを使っているなって。その力を利用して、これだけ自己主張の強い音を作り出したと思うんですね。それほど、私はたいへん好感を持って聴きました。それとCD専用機だから、ディスクの読み込みが速い。

プロフィール

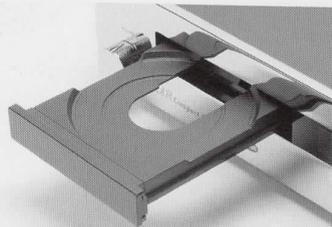
Acuteはティム・デ・パラヴィチーニが主宰するEAR初のデジタルオーディオ製品。アナログフィルターは自社設計で、出力段には真空管(PCC88×2)を用い、やはり自社設計のトランスを介して出力する。フロントパネルにポリウムを備えており、アナログ出力は最大5Vrmsで出力されるためパワーアンプとの直接接続も可能。2011年に3代目となった本機は、USB入力を装備しPCによるハイレゾ音源(96kHz/24bit)も再生にも対応する。

(編集部)

# EAR Acute 3 ¥880,000

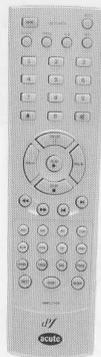
●再生可能ディスク:CD ●アナログ出力:2系統(RCAアンバランス、XLRバランス) ●デジタル出力:1系統(TOS光) ●デジタル入力:3系統(RCA同軸、TOS光、USB) ●最大入力サンプリング周波数/ビット数:96kHz/24ビット ●使用真空管:PCC88/6DJ8×2 ●寸法/重量:W435×H95×D320mm/8kg ●備考:リモコン付属。価格はクローム仕上げ、ブラック仕上げは¥798,000

●問合せ先:ヨシノレーディング(株) ☎050(3375)3975



リアパネル。アナログ出力は、バランス/アンバランスともにフロントパネルにあるポリウムで音量調節可能。

樹脂製のディスクトレイ。CD専用モデルのため、ディスク挿入後の読み込み時間が速い。



出力レベルも調整可能な付属のリモコン。

新「ヴィジュアルディ」に感動しました。この第一章の導入部の雰囲気は圧的でした。

東条 「エリントン」は、良かったね。

常盤 艶が乗って、ジャズが好きならはとても向いているプレーヤーだと感じました。「マーラー」は、骨太で、それぞれの楽器に付帯する豊かな響きがとてもアナログ的でした。

東条 それから「ワグナー」は、カウフマンはもうちよつと派手な声のはずですが、少し抑えめになった印象ですね。「マーラー」も、これはブルーレーズの指揮としては、どちらかというとう温かい傾向の音でした。この音で聴くと「ブルーレーズも大人しくなったな」という印象を持つような音だったと思います。

東条 それから「ワグナー」は、カウフマンはもうちよつと派手な声のはずですが、少し抑えめになった印象ですね。「マーラー」も、これはブルーレーズの指揮としては、どちらかというとう温かい傾向の音でした。この音で聴くと「ブルーレーズも大人しくなったな」という印象を持つような音だったと思います。

倒されて、このままヴァイオリンが出てきたらきつときつい音が出てくるだろうなと思つたら、丁寧に磨き込まれた綺麗な音なんです。真空管とトランスの音が好きな私としては、その両方の良さをよく引き出してくれたと喜んだんです。これほど音に演出が施されているのに、聴き手の心を掴むような音になっているというのは、設計者はかなりの力量の持ち主だと思います。

「ワグナー」もたしかにプレーヤーで演出が加わっているのを感じるんですが、まるで芝居を見るかのように素直に楽しめるんですよ。「マーラー」も、ブルーレーズ本来のやや冷徹な雰囲気音が温かい音に聴こえる。聴き手によつては、それはマイナスだと言う人もいると思うんです。お化粧が過ぎるとかね。でも、私は「そのお化粧、良いじゃない」と。結論としては、このプレーヤーは今のオーディオに欠けていると思つている部分を設計者は確信的に出している。音楽は楽しく聴くものだが、という意図を僕は聴き取りました。だから、今回のWEESピーカーを中心としたスピーカーでは演出の度合いが強すぎたかもしれないんです。もうちよつとさりりとした現代のシステムを使えば、中庸を得た鳴り方になるかもしれない。

東条 私も読み込みが速いプレーヤーが好きなんです。仕事柄、早送りのスピードも重要で、これはその点でも便利なプレーヤーです。音のほうは、私の好みとは少し違うタイプですけどね。「ます」は、演奏を始める前の奏者の息遣いまでストレートに感じられて忠実ですし、コントラバスの低音もよく